

秀友新聞

責任者 院長 橋本 秀友
 発行 第1号
 平成28年9月6日

初版発行に向けて
 院長より

秀友ふじいろいろ教室

院長の村井です。平成二十八年も八月になりましたが、猛暑が続いております。皆様におかれましては、益々の御活躍のこととお慶び申し上げます。私が札幌秀友会病院に赴任したのは平成十九年四月一日でした。来年でちょうど十年目になります。前任地の病院への通勤途中に時々、当院の前を横目で見ながら通っていました。

秀友ふじいろいろ教室は、医療に関するテーマで職員が講演し、地域住民の皆様にご覧に聞いて頂きたいという、村井院長の発案から始まりました。

院長の特徴は様々で、やさしい神経内科医による神経難病治療や、丁寧な循環器医師によりカテーテル治療や静脈瘤の手術。すぐれた技術の麻酔科医によるペインクリニック。百戦錬磨の外科医による消化器外科・肛門外科診療。さらに、ペテラン脳神経外科医が二十四時間診療体制で、脳血管治療を含む脳卒中や外傷、脊椎疾患の診療や治療にあたっております。また、背景に認知症状を持たれる患者さんも少なくありませんが、根気強く話を聞いて

昨年の六月二十五日(木)から行っている当教室も、今年の五月十二日(木)で第二十二回の開催を迎えております。第一回の村井院

くれる認知症専門外来と、新たに立ち上げた認知症ケアチームにより、きめ細かい対応が可能です。開院当初から変わらないものは、病院の窓から見える季節ごとに姿を変える手稲山、そして共に働く人の熱い気持ちでしょう。今後、地域住民の皆様により良い医療が提供できるように取り組んで参ります。



村井院長 (イラスト)

- ・ 第九回 「糖尿病について①」
- ・ 第十回 「医療費について」
- ・ 第十一回 「带状疱疹について」
- ・ 第十二回 「腰痛予防について」
- ・ 第十三回 「インフルエンザ予防」
- ・ 第十四回 「心原性脳塞栓症のお話」
- ・ 第十五回 「在宅医療をとりまく環境について」
- ・ 第十六回 「冬道の転倒対策」
- ・ 第十七回 「頭の痛みについて」
- ・ 第十八回 「車椅子の操作方法」
- ・ 第十九回 「手の震えについて」
- ・ 第二十回 「家で使える介護保険サービス」
- ・ 第二十一回 「認知症初期の関わり方」
- ・ 第二十二回 「医療費について」高額療養費について」
- ・ 第二十三回 「地域見守り」声かけから始まる虐待予防」
- ・ 第二十四回 「一過性脳虚血発作(TIA)について」
- ・ 第二十五回 「高齢者向け対策」
- ・ 第九回 「糖尿病について①」
- ・ 第十回 「医療費について」
- ・ 第十一回 「带状疱疹について」
- ・ 第十二回 「腰痛予防について」
- ・ 第十三回 「インフルエンザ予防」
- ・ 第十四回 「心原性脳塞栓症のお話」
- ・ 第十五回 「在宅医療をとりまく環境について」
- ・ 第十六回 「冬道の転倒対策」
- ・ 第十七回 「頭の痛みについて」
- ・ 第十八回 「車椅子の操作方法」
- ・ 第十九回 「手の震えについて」
- ・ 第二十回 「家で使える介護保険サービス」
- ・ 第二十一回 「認知症初期の関わり方」
- ・ 第二十二回 「医療費について」高額療養費について」
- ・ 第二十三回 「地域見守り」声かけから始まる虐待予防」
- ・ 第二十四回 「一過性脳虚血発作(TIA)について」
- ・ 第二十五回 「高齢者向け対策」

け施設・住宅の種類と特徴」



第1回ふじいろいろ教室

新設部署のご案内

今年の四月より、「あい・ふらっと(総合相談)」という部署が新しく新設されました。当部署は、生活上の安全・安心・健康を確保するために、他職種協働で入院・外来・在宅医療、介護のつながり、切れ目のな

「あい・ふらっと」の名前に込められた意味を左記に載せます。早く皆様の心に名前が残るよう取り組んで参ります。

- Interprofessional work → 専門職連携による
- Face to face → 顔が見える環境で
- Life → 生命・生活を
- Aid・assist → 支える・援助する
- Transdisciplinary Team → 相互乗り入れチーム

I (私・愛をこめて)
 ふらっと (横断的に)

未来を担う。新入職員!

平成二十八年四月、今年度も新たに看護部五名、リハビリテーション科五名の

いサービスを提供できることを目的としております。

新入職員が入職しました。初々しい面持ちで、希望と不安を胸に抱き、札幌秀友会病院の一員として第一歩を踏み出しました。四日間

編集後記

当院が昭和六十三年一月十一日に開院してから、今年で二十八年が経ちます。当法人の理念である『急性期医療から在宅療養まで』の一貫した医療を行うために、急性期医療・術前術後管理・リハビリテーションを三本柱とし、医療技術の向上・地域への貢献・在宅医療を目標に取り組んでまいりました。今日この日があるのもこれらもひとえに、地域の方々を含め、当法人に関係する皆さまのおかげだと感じております。

今回、病院情報誌として第一号となりますが、今後も定期的に発行していく予定です。ぜひ、今後も御笑読頂けると幸いです。